

【 台北駐日經濟文化代表處札幌分處 】

2022 年 11 月第 4 週 TOPICS

【雲林・斗南産の契約栽培米をオーストラリアに初輸出＝現地の日本料理店で提供―社会―】

(雲林中央社) オーストラリアに輸出する中部・雲林県斗南産の契約栽培米の第 1 便出発式が 23 日、斗南鎮内で開かれた。式典に出席した行政院（内閣）農業委員会の陳吉仲（ちんきちちゅう）主任委員（閣僚）は、台湾産米の輸出拡大に期待を寄せた。式典を開いた斗南鎮農会（農協）の担当者によれば、斗南産のコメがオーストラリアに輸出されるのは初めてで、順調にいけば今後 1 年で 400 トンを輸出する見込み。現時点での輸出先は現地の日本料理店で、すしに使われるという。輸出に当たっては、農業委員会がコメの選別機や生産履歴に関する政策などで同農会を支援した。輸出に協力した台湾優米実業の陳建彰総経理（社長）は、台湾産米の品質は日本産米に劣らないと話し、オーストラリアと英国、欧州連合（EU）諸国のつながりを通じて台湾産米が世界に広まっていくよう願った。
中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 24 日

【台湾の張忠謀 APEC 特使、岸田首相と会談 台日間の協力深化に期待―経済―】

(台北中央社) アジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議に台湾の特使として参加している半導体受託生産大手、台湾積体電路製造（TSMC）の創業者、張忠謀（モリス・チャン）氏は 18 日、岸田文雄首相と会談した。日本が国際社会の場で台湾海峡の平和と安定の重要性を複数回にわたって言及していることに感謝の意を示した。張氏は、岸田氏と世界情勢や台日経済などにおける協力の成果について意見交換した。台湾が加盟を目指す環太平洋経済連携協定（TPP）については、台湾には強い意欲と高いレベルのルールに見合った力があると強調。日本をはじめとする理念の近い国との連携を強化し、共に台湾海峡とインド太平洋地域の平和と安定、繁栄と発展を維持し、促進したいと語った。岸田氏は引き続き経済協力と交流を進めることに意欲を示した。また張氏はこの日、張淑芬夫人と共にシンガポールのリー・シェンロン首相とも面会。リー氏はフェイスブックに談笑している写真を投稿し、2018 年にパプアニューギニアで行われた APEC 首脳会議以来の再会であることに触れ「またお会いできてうれしい」とコメントし

た。

中央社フォーカス台湾：2022年11月19日

【蘇行政院長「APECの場を通じTPP加入支持獲得すべき」—経済—】

(台北中央社) 蘇貞昌(そていしょう) 行政院長(首相)は24日、台湾の環太平洋経済連携協定(TPP)加入について、関係省庁はアジア太平洋経済協力会議(APEC)の場を通じ、TPP参加国と密接なつながりを維持して支持を取り付けるべきだとの認識を示した。この日、行政院会議(閣議)が開かれ、外交部(外務省)と国家の発展に関する政策や戦略の策定を担う国家発展委員会が17~19日にタイ・バンコクで行われたAPEC閣僚・首脳会議に関する報告を行った。同院の羅秉成(らへいせい)報道官は会議後の記者会見で、蘇氏は今回のAPECで多くの成果があったとし、台湾の特使として参加した半導体受託生産大手、台湾積体回路製造(TSMC)の創業者、張忠謀(モリス・チャン)氏に対して、蔡英文(さいえいぶん)総統が託した任務を完全に遂行したと感謝の意を伝えたと語った。また蘇氏は世界経済の情勢が急速に変化する中で、挑戦は少なくないと指摘。各機関に対して地域統合の機会に引き続き加わった上でAPECの参加エコノミーと協力し、地域の平和と発展に向け、台湾が貢献できる国際的な場を開拓するよう指示したという。

中央社フォーカス台湾：2022年11月24日

【山形市の感謝ちょうちん、台湾・台南市で来年1月に展示へ=友好都市協定締結5周年で—観光—】

(台南中央社) 山形市の大学生や小中学生が作った「感謝のちょうちん」が来年1月、南部・台南市の鄭成功祖廟で展示される。両市の友好都市協定締結5周年を記念したもの。黄偉哲(こういてつ)台南市長は、平和を祈る気持ちを互いに伝え合うことで、交流を深めていければと期待を寄せた。台南市政府によれば、山形市からちょうちんのプロジェクトの共同実施に関する誘いがあり、今年7~8月、鄭成功祖廟と台南市の中学生によるちょうちん300個がJR山形駅の通路に飾られた。今回山形市から届けられるのは、東北芸術工科大学の1年生や山形市内の小中学生が制作したちょうちん約220個。山形名産のサクランボや観光名所の銀山温泉の他、台南市の観光PRキャラクター「魚頭君」と山形の郷土料理の芋煮を組み合わせたイラストなどが描かれた。閩南語(台湾語)で「ありがとう」を意味する「多謝你」の文字も書かれた。ちょうちんは年内に台南に到着する予定。両市は2017年12月、友好都市協定を締結。協定は観光や経済、文

化、教育、スポーツの5分野での交流の推進を確認するもので、新型コロナウイルス下でも双方にメッセージを送り合うなどして交流を続けていた。

中央社フォーカス台湾：2022年11月25日

【台湾観光再開/日本の旅行業界関係者ら 台湾中部の観光地を視察 日本人観光客増に期待—観光—】

(台中中央社) 交通部(交通省) 観光局参山国家風景区管理处は25日、日本の旅行業界関係者9人が訪台し、台湾中部にある観光地の視察を行ったと明らかにした。日本からの観光客増加に期待を寄せている。一行は23日に台湾に到着。24日には台中市の台中国家歌劇院や台湾料理が食べられるレストラン「香蕉新樂園」、日本統治時代に大正製酒の工場があった文化施設、台中文化創意産業園区などを視察した。3泊4日の日程で26日に帰国する予定。参加者の一人は、台湾は飛行機で数時間の距離にあり、日本の修学旅行などで重要な目的地だと指摘。今回の視察については新たな観光ルートを開拓し、双方の友好関係を深めたいと語った。

中央社フォーカス台湾：2022年11月25日

【阿里山鉄道の日本製ディーゼル機関車、英国で運行へ 交流の一環—観光—】

(嘉義中央社) 阿里山林業鐵路(阿里山森林鉄道)の日本製ディーゼル機関車1両が今後英国ウェールズに運ばれ、姉妹鉄道のウェルシュプール・スランフェア鉄道で運行されることになった。行政院(内閣) 農業委員会林務局の関係者は、「英国で観光大使」になると期待を寄せている。23日には南部・嘉義市で記者会見が行われた。英国に運ばれるのは1972年に三菱重工で製造されたDL34と呼ばれる機関車。3年間走行する予定だ。ウェルシュプール・スランフェア鉄道のマイケル・レイリー代表は、2017年9月に阿里山鉄道と姉妹鉄道提携を結んで以降、密接な交流を続けてきたとし、数々の問題を克服してこの日を迎えることができうれしいと語った。林務局の林華慶局長によると、機関車は今月末にも北部・新北市の台北港から船で運ばれ、来年1月1日にも英国に到着するという。多くの英国人に台湾や阿里山鉄道を知ってもらい、観光鉄道交流を促進したいと語った。

中央社フォーカス台湾：2022年11月24日

【 台北駐日經濟文化代表處札幌分處 】

2022年11月第3週TOPICS

【頼副総統、工藤函館市長とリモートで面会 交流強化に期待—政治—】

(台北中央社) 頼清徳(らいせいとく) 副総統は15日、北海道函館市の工藤寿樹市長とリモートで面会し、さまざまな分野での台日交流の強化に期待を示した。函館市や経済団体の関係者らは14日から3日間の日程で訪台。15日午後には北部・台北市の総統府を訪問した。本来は工藤市長も同行する予定だったが、新型コロナウイルスへの感染が確認されたため出発を見合わせた。頼氏は工藤氏に対し、台湾で災害や事故が起きた時、即座に支援の手を差し伸べ、台湾を助けてくれたとして感謝の意を示した。また南部・台南市長だった2012年に函館を訪問して医療や農業、観光交流を行ったことに触れ、夜景や紅葉、美食は今でも忘れられないと振り返った。今年6月には浜野幸子市議会議員が中心となり「函館市議会日台友好議員連盟」が設立され、27人の市議会議員全員が加入した他、今年8月に中国が軍事演習を行った際には台湾への支持を表明したとして、改めて感謝を示した。日本との関係については、運休している航空路線の再開後に経済や観光面での協力を強化させることに期待を寄せ、自然災害時の相互支援や全体主義の拡張や脅威についても団結して連携し、共同でインド太平洋地域の平和と安全を守りたいと語った。

中央社フォーカス台湾：2022年11月16日

【弘前市長、台南市を訪問 経済や教育、文化での協力促進に期待—政治—】

(台南中央社) 青森県弘前市の桜田宏市長が15日、台南市政府を訪れ、趙卿恵(ちょうきょうけい) 副市長と面会した。桜田氏は、経済や教育、文化などの分野での協力促進に期待を寄せた。両市は2011年にリンゴとアップルマンゴーによる果物交流を開始。17年12月には両市と青森県の3縣市間で友好交流に関する覚書を結んだ。台南市は弘前市の国際友好都市となっている。双方は会談で、今後の協力の可能性について話し合った。趙氏は、日本との直接的な往来の強化が黄偉哲(こういてつ) 台南市長から指示されたことに触れ、さまざまな農産物による交流や文化交流、相互訪問などの促進に意欲を示した。趙氏は桜田氏に同市産の緑ポンカン(青皮椪柑)を贈った。桜田氏は14日から19日までの日程で

訪台。16 日からは台南市内のデパートで、弘前市産のリンゴなどを販売する物産展が始まる。物産展は来月 4 日まで。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 16 日

【台湾と宮城の団体、協定を更新 経済関係をさらに強化へ—経済—】

（台北中央社）台湾の経済団体、中華民国工商協進会は 15 日、宮城県内の企業や経済団体でつくる「宮城県国際経済振興協会」と国際協力協定の再調印をオンライン形式で行った。更新は 4 度目。協力の分野をさらに広げ、双方の経済関係の強化や商業、観光、教育の分野での交流の活性化を狙う。工商協進会が同日、報道資料で発表した。同協会とは 2006 年に初めて協定を結び、16 年にわたり交流を続けてきた。協定の期間は 4 年。今回の協定では、経済や科学技術、観光、教育などの分野での交流や協力を引き続き進めていく他、地方創生や大学生の研修旅行を強化していく内容が新たに追加された。オンライン形式であいさつした台北駐日経済文化代表処の謝長廷（しゃちょうてい）代表（大使に相当）は、協定の更新により、台日のさまざまな分野での交流や協力関係が引き続き深まっていくよう期待を寄せた。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 16 日

【弘前市、台湾の百貨店で物産フェア 桜田市長がリンゴやコメのおいしさ PR—経済—】

（台中中央社）青森県弘前市の文化物産フェアが台湾各地にある遠東グループの百貨店で開催されている。17 日には中部・台中市の台中大遠百で開幕式が行われ、弘前市の桜田宏市長が同市産食品のおいしさをアピールした。同フェアは今年で 11 回目の開催。桜田氏はリンゴだけでなく、リンゴのジュースやお菓子、世界自然遺産白神山地の水、青天の霹靂（へきれき）と呼ばれるコメの他、多くの物産を持ってきたと商品を説明。購入を呼びかけた。また今年のリンゴについて「とてもおいしい」と強調した他、台中市を拠点とする高齢者福祉団体に同市産のリンゴを寄贈した。来月 4 日まで。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 18 日

【ナウル大統領が訪台 「中華民国台湾と共にある」 蔡総統が歓迎—政治—】

（台北中央社）中華民国（台湾）と外交関係を結ぶ太平洋の島国ナウルのラス・ジョセフ・クン大統領は 15 日、北部・台北市の総統府を訪問し「ナウルは引き

続き中華民国台湾と共にある」と語った。今年 9 月に行われた総選挙で当選したクン氏らは 14 日に訪台し、19 日まで滞在する。総統府では蔡英文（さいえいぶん）総統や頼清徳（らいせいとく）副総統らが出迎え、国軍が 21 発の礼砲を撃って敬意を示した。蔡氏はナウルについて、民主主義と自由の普遍的な価値を分かち合っているとあいさつ。また台湾とは長年にわたって医療や公衆衛生、農業、畜産業、水産業、クリーンエネルギー、海上警備などの分野で密接な交流と協力を行い、多くの成果を生み出していると強い結びつきを強調した。クン氏は、ナウルの持続可能な開発目標に向けて台湾は大きな貢献を果たしていると指摘。政府と人民は喜んでいと語り、台湾との協力を通じ、関連制度の強化や経済の促進、国際問題の解決を実現したいと期待を寄せた。また台湾と共に挑戦や新たな世界の不確定要素に立ち向かうとする立場を強調。台湾は 2300 万人の人々がいる民主主義国家であり、世界から取り残されるべきではなく、世界各国は肩を並べて一緒に前進すべきだと述べた。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 15 日

【環太平洋コーヒーサミット開催 主催者「台湾のコーヒーを世界に伝えたい」 —経済—】

（台北中央社）環太平洋地域のコーヒーに関する国際フォーラム「環太平洋コーヒーサミット」が 16 日、北部・台北市のホテルで行われた。主催した台湾コーヒー産業戦略連盟の林哲豪氏は、国際的な概念を台湾に引き入れ、台湾のコーヒーを世界に伝えたいと語った。国際コーヒー機関（ICO）の統計によると、2021 年の台湾でのコーヒー消費量は 28 億 5 千万杯で、4 万トン以上のコーヒー豆を輸入し、市場規模は約 800 億台湾元（約 3600 億円）とされるという。同連盟を指導する行政院（内閣）農業委員会の陳添寿（ちんてんじゅ）副主任委員（副大臣）は、今年台湾の 5 つのコーヒー業者が出品したコーヒー豆の価格がいずれも 1 ポンド（約 450 グラム）当たり 100 米ドルを超え、台湾コーヒーの品質は良くなり、国際的に高い評価を受けていると語る。また台湾は本来コーヒーの消費国だったとしながらも、農家や業者の生産・焙煎技術が洗練されてきたと指摘。台湾のコーヒー栽培産業は始まったばかりだが、将来は世界の経験を吸収し、さらに大きく発展するだろうと述べた。同連盟は、フォーラムでは気候変動が環太平洋地域のコーヒー栽培に与える影響から農家がどのように科学技術や設備を応用し、生産効率と品質を上げるかなどについて話し合われた。また良質なコーヒーや環境に優しい栽培方法の分析なども行われるとしている。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 16 日

【 台北駐日經濟文化代表處札幌分處 】

2022 年 11 月第 2 週 TOPICS

【台湾、米国と人道支援などで覚書調印 外交部「強固な関係の表れ」—政治—】

(台北中央社) 外交部(外務省)は7日、駐米国台北經濟文化代表處(大使館に相当)が現地時間3日、ワシントンで米国の対台湾窓口機關、米国在台協會(AIT)と国際開発・人道支援での協力に向けた覚書を交わしたと発表した。同部は双方のパートナーシップが強固であることの表れだと喜びを示した。同部が発表した報道資料によれば、覚書には蕭美琴(しょうびきん)駐米代表(大使に相当)とAITのイングリッド・ラーソン執行理事が署名。覚書に基づき、同部が立ち上げた国際經濟協力推進機關「国際合作發展基金会」と米国際開発庁(USAID)が国際開発と人道支援の分野で研究や訓練、能力育成、知識移転を促進していく。あいさつに立った呉釗燮(ごしょうしょう)外交部長(外相)は、同覚書の締結によって、双方の協力関係が深まる他、国際社会にも貢献できると言及。双方は今後、より強固なグローバルパートナーシップにまい進できると信じると述べた。AITによれば、米台は情報交換や実践の共有、国際的イニシアチブ、共同研究などを通じて取り組んでいく。

中央社フォーカス台湾：2022年11月8日

【游国会議長、沖縄県議の台湾視察団と会談 宜蘭と沖縄の相互理解促進願う—政治—】

(台北中央社) 游錫堃(ゆうしゃくこん)立法院長(国会議長)は9日、台北市の立法院応接室で、沖縄県議会自民党会派の台湾視察団と会談した。北東部・宜蘭県出身の游氏は、宜蘭と与那国島がわずか約110キロしか離れていないことに触れた上で、相互理解の促進強化を願った。花城大輔県議を団長とする視察団は、沖縄と台湾の經濟や観光、文化などでの交流促進を目的に訪台した。これまでに沖縄を3度訪問したことがあるという游氏は、行政院長(首相)在任中の2004年に米国から帰国する際に台風の影響で沖縄に着陸したのが最後の1回だと明かし、日本の国土を踏んだ台湾で最初の行政院長になったと振り返った。また、戦後の戒厳令下では沖縄と宜蘭の交流の多くが公にできず、関連の文献資料が非常に不足していることにも言及。多くの台湾人が沖縄と台湾の歴史を知ら

ない状況が生じているとし、将来的にこの部分の歴史的認識についても普及させていくべきだと述べた。

中央社フォーカス台湾：2022年11月9日

【台湾、病虫害のない生産拠点拡張へ ミニトマトの対日輸出実現を目指す一経済一】

(雲林中央社) 台湾産ミニトマトの日本向け輸出を実現しようと、栽培農家たちが行政院農業委員会(農水省)指導の下、ビニールハウスを利用したモデル圃場の設立など、「害虫のいない生産拠点」の拡張に向けて取り組みを進めている。関連のPR記者会見が5日中部・雲林県で開かれた。台湾では、ウリミバエやミカンコミバエなどウリ類やかんきつ類に影響を与える農業害虫が発生。完全な消毒方法などを確立し、日本の植物検疫基準を満たさない場合、現地へのミニトマトの輸出は禁止されている。会見に出席したトマト農家、郭能禎さんは生鮮トマトに対する日本のニーズが台湾の15倍以上に、冬におけるトマト価格が台湾の2倍以上に達することに言及。日本での市場シェアを5%でも取得できれば、台湾産トマトの生産額を倍増させることができるとし、同委が「害虫のいない生産拠点」としての認証を日本から取得できると期待した。同委の陳吉仲(ちんきちゅう)主任委員(農水相)は、ミニトマトの日本向け輸出を実現させることは同委として負うべき責任だと述べ、関連部門間の連携を強化することで農家を支援したい姿勢を見せた。モデル圃場の面積を20ヘクタールに拡大する考えも示した。ミニトマトのモデル圃場は雲林県のほか、南部・嘉義県、中部・彰化県にも設置されているが、総面積は1ヘクタール未満だという。

中央社フォーカス台湾：2022年11月5日

【台鉄と西武HD傘下の計4駅、姉妹駅締結2周年 台湾と日本間の観光交流促進へ一観光一】

(台北中央社) 台湾鐵路管理局(台鉄)の万華駅(台北市)と近江鉄道多賀大社前駅、同局礁溪駅(宜蘭県)と伊豆箱根鉄道伊豆長岡駅(いずれも西武ホールディングス傘下)が4日、姉妹駅協定締結2周年を迎えた。台鉄の同2駅で記念式典が開かれ、双方の代表は鉄道による互いの観光交流強化に意欲を示した。万華駅での式典は午前で開催。これまでの交流の歴史を映像で振り返った他、タブレットの受け渡しをしたり、折り鶴で台日の人々の平安を祈ったりした。午後、礁溪駅では台鉄の鉄道風景を撮影した写真展を通じて台湾各地の絶景を紹介した。台鉄は新型コロナウイルスの流行で影響を受けた世界の観光業も感染状況

の落ち着きで回復が進んでいると言及。台日の姉妹駅により、コロナ後の鉄道交流や観光促進につながればと期待を寄せた。台鉄は 2015 年に西武 HD および西武鉄道と利用者拡大などに向けた「包括的事業連携に関する友好協定」、「姉妹鉄道協定」を締結。それ以降、交流が続いてきた。

中央社フォーカス台湾：2022 年 10 月 5 日

【チャイナエアラインとエバー航空 米 NPO の調査で「五つ星」—観光—】

(シンガポール中央社) 世界の航空会社や関連企業でつくる民間非営利団体 (NPO) 「エアライン・パッセンジャー・エクスペリエンス・アソシエーション」 (APEX) が実施した 2023 年版の航空会社格付け調査で、台湾のチャイナエアライン (中華航空) とエバー (長栄) 航空がそれぞれ「五つ星国際航空会社」の評価を獲得した。10 日までに授賞式が行われ、両社の代表が認定証を受け取った。エバー航空によると、調査は世界 600 社近くの航空会社、100 万便以上の乗客を対象とし、世界および地域ごとに「座席の快適性」、「機内サービス」、「機内食」、「機内エンターテインメント」、「機内 Wi-Fi」などを評価しているという。「五つ星」とされたのはチャイナエアラインとエバー航空の他、全日空 (日本)、キャセイパシフィック航空 (香港)、大韓航空 (韓国)、エルアル・イスラエル航空など。エバー航空は昨年も「五つ星」に輝いており「世界の乗客の支持に感謝する」とコメント。新型コロナウイルスの流行下でも歩みを止めることなく、接触を減らしながら効率化を加速させ、絶えず新しいものを生み出すなどの方針を示した。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 11 日

【日本製の気動車、1 両の修復終わる 国家鉄道博物館で展示へ—観光—】

(台北中央社) 台湾鐵路管理局 (台鉄) と国家鉄道博物館準備処が日本製気動車 4 両の修復プロジェクトを共同で進めている。このたび最初の 1 両の修復作業が完了し、7 日には実際に車両を動かす試験が行われた。今後、博物館の開館後に展示される予定だ。台鉄と同準備処は 2018 年からプロジェクトを進めていた。これらの車両は当初、ガソリンカーとして導入されたが、1950 年代に気動車に改造され、幹線や各地の支線で活躍した。すでに営業運用からは退いている。試験に立ち会った同準備処の鄭銘彰主任はプロジェクトについて、国内で初めて歴史的な鉄道車両や設備の保全、修復、維持などの指針であるリガ憲章に基づいて進められたと説明。いずれの車両も台湾社会の発展を見届けてきたとした上で、保存には高い価値があると強調した。今回修復されたのは DR2303 と呼ばれ

る車両。外装や内装も 1984 年のリニューアル時の姿に復元したという。今後修復される残り 3 両については、1 両が博物館で展示される他、2 両は台鉄に引き渡されるとしている。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 9 日

【 台北駐日經濟文化代表處札幌分處 】

2022年11月第1週TOPICS

【日本で台湾関連のシンポジウム 蔡総統「台日米で民主主義の強靱性強化したい」—政治—】

(台北中央社) 蔡英文 (さいえいぶん) 総統は 29 日、東京で開かれた台湾関連のシンポジウムにビデオメッセージを寄せ「台日米はパートナー関係を深めるだけでなく、より多くの民主主義国家と協力して共通の信念を守り、世界の民主主義の強靱性 (きょうじんせい) を強化したい」と述べた。蔡氏は、過去数年間台日米は連携して新型コロナウイルス対策に取り組んできたと指摘。新型コロナ収束後の挑戦と国際情勢の変化に向き合う中「引き続き協力関係を深め、自由で開かれたインド太平洋の実現に向けて共に努力できると信じている」と語った。また台日米は正式な外交関係はないとしながらも、各分野で緊密な連携と交流が行われ「地域の安定と発展の促進に寄与するばかりか、世界に多くの貢献をもたらしている」と強調。3カ国が専門家の議論の場として設置した「グローバル協力訓練枠組み」(GCTF) を例に挙げた上で、関連のシンポジウムでは、国連が国際目標として掲げた「持続可能な開発目標」が直面する課題に関して共に解決策を探ったとアピールした。世界的なサプライチェーン (供給網) の再編については、台日米が国際的な分業体制においてそれぞれの強みを発揮し、世界の民主主義国家によるサプライチェーンを強化したいと期待を寄せた。蔡氏は、近年日米が多く国際社会の場で台湾海峡の平和と安定の重要性を強調していることに感謝を表明。双十国慶節 (10月10日、中華民國の建国記念日) 前後に日米の国会議員が来台したことについて、台湾人民は固い支持と友情を感じ取ったと語った。

中央社フォーカス台湾 : 2022年10月29日

【列国議会連盟の訪問団、蔡総統と会談 台湾の民主主義への支持を強調—政治—】

(台北中央社) 国際議員連盟「対中政策に関する列国議会連盟」(IPAC) のメンバー8人が3日、台北市の総統府で蔡英文 (さいえいぶん) 総統と会談し、台湾の民主主義に対する固い支持と団結を表明した。訪問団は1日に訪台。ドイツ、

ベルギー、チェコ、オランダ、コソボ、英国、ウクライナの各国議会や欧州連合（EU）欧州議会の議員で構成される。IPAC 代表団の台湾訪問は 2020 年 6 月の設立以来初めて。IPAC は今年 9 月、米ワシントンで開いた総会で台湾海峡の平和と安定の重要性を強調する共同声明を採択した他、先月 14 日にも中国共産党の第 20 回党大会に先立ち、台湾への関与の強化を呼び掛ける声明を出した。新型コロナウイルス感染のためリモートで出席した団長のビュティコーファー IPAC 共同議長は、台湾への支持は IPAC の任務の重点の一つだと述べ、台湾と団結して中国共産党の脅しに対抗し、平和を守っていく IPAC の立場を強調した。オランダ下院のシュールド・シュールヅマ議員は、世界の民主主義の盟友は北京に対し、「北京が台湾に対して何らかの行動を取れば、非常に深刻な政治、経済、軍事的結果に直面することになる。払う代償は獲得できる利益よりも大きい」とのメッセージを団結して明確に伝える必要があると訴えた。蔡総統は IPAC メンバーの訪台に感謝し、台湾が民主主義の盟友と各方面での協力を引き続き深化させ、台湾海峡の安全と地域の安定、平和を共に守れるよう期待を寄せた。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 3 日

【花蓮市、与那国町と姉妹都市 40 周年で記念式典 記念碑もお披露目—社会—】

（花蓮中央社）東部・花蓮市と沖縄県与那国町の姉妹都市締結 40 周年を記念した式典が 28 日、花蓮の中琉公園と与那国の嶋仲公民館で開催された。泡盛の仕次ぎ式が行われた他、双方の固い絆を象徴する記念碑「約束」がお披露目された。式典で魏嘉賢（ぎかけん）花蓮市長は、今月初旬に与那国を訪問して記念植樹をしたことに触れ、将来も引き続き文化や教育、スポーツの面でさらに密接な交流を図りたいと期待を寄せた。中琉公園には外交部（外務省）東部弁事処の胡琪斌（こきひん）処長、嶋仲公民館には台北駐日経済文化代表処那覇分処の王瑞豊（おうずいほう）処長（総領事に相当）らも駆け付け、長年の友好関係を祝った。記念碑は指輪の形をしており、上部には海をイメージした飾りが付けられた。制作した芸術家の黄裕栄さんによると、花蓮と与那国の距離が約 111 キロであることにちなみ、飾りの周の長さは 111 センチになっているという。

中央社フォーカス台湾：2022 年 10 月 29 日

【彰化市、大分県玖珠町と友好交流協定締結 扇形庫のつながりで—社会—】

（彰化中央社）中部・彰化市は 2 日、扇形庫のつながりで大分県玖珠町と友好交流協定を結んだ。林世賢（りんせけん）彰化市長は、協定締結を通じて、鉄道文化観光や経済、スポーツ、学校などの分野での交流を拡大させたい考えを示した。

彰化市は台湾で現存する唯一の扇形庫「彰化扇形車庫」を有し、玖珠町には九州で唯一残る扇形機関庫である「旧豊後森機関庫」がある。友好交流協定は、日本統治時代に造られた彰化扇形車庫が今年で設置から 100 年を迎えるのを記念して締結された。2019 年 12 月には、台湾鐵路管理局（台鉄）と玖珠町の間での扇形庫を縁とした姉妹友好が結ばれている。調印式はリモート形式で行われ、林市長と玖珠町の宿利政和町長が協定書に調印した。台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表（大使に相当）や大野元秀玖珠町議会議長らも立ち会った。林市長は、彰化市には扇形車庫や彰化大仏や寺廟、古跡などの観光名所があると紹介。それだけでなく、実際に市を訪れて彰化の鉄道風情やグルメを楽しんでほしいと宿利町長らの来訪を呼び掛けた。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 3 日

【お茶が縁に 台中市和平区と長崎県東彼杵町が友好提携—社会—】

（台北中央社）中部・台中市和平区は 2 日、長崎県東彼杵町と友好関係を促進する意向書を締結した。オンラインで調印式が行われ、呉万福区長と岡田伊一郎町長が書類に署名した。台北駐福岡経済文化弁事処（総領事館に相当）の陳銘俊処長（総領事に相当）も式典に出席した。同処によれば、陳処長が両自治体の間を取り持った。和平区は「梨山茶」、東彼杵町は「そのぎ茶」をそれぞれ特産とし、これが提携のきっかけになったという。陳処長は、台湾と日本の関係が良好であることに触れ、自治体間の友好交流にも広がっていると喜び、今後の関係深化に期待を寄せた。呉区長は、和平区と東彼杵町には多くの共通点があるとし、中でもお茶が最大の共通点だと言及。双方の茶文化の特色を通じ、国際交流を深めることで、同区の国際舞台での活躍にもつなげられればと語った。同処は今後、両自治体の関係者の相互訪問を支援していく姿勢を示した。

中央社フォーカス台湾：2022 年 11 月 3 日